

コロナ感染症対策に係る本県の補正予算総額は約6千億円！

「新型コロナウイルス感染症」（COVID-19）は、我が国では2020年1月に国内初の症例として探知され、翌2月には「指定感染症」に指定されました。

その後、コロナ感染症は全国的に拡大し、この間、国、都道府県、自治体挙げてコロナ感染症対策、拡大防止に努めてきました。

そして、国は『新型インフルエンザ等対策特別措置法』並びに関係省令等の制定を図るとともに、対策予算を講じてきました。

1. 国のコロナウイルス感染症拡大防止、緊急経済対策及び感染症対策関係経費

国のコロナ感染症拡大防止、経済対策等を含むコロナ対策のための補正予算は、2020（令和2）年度、2021（令和3）年度を合わせて総額80兆円3千億円を超えています。

2. 「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」

感染拡大の影響を受けている地域経済や住民生活を支援し、地方自治体の財政支援のための交付金です。2020（令和2）年度、2021（令和3）年度の合計で15兆1,760億円となっています。

福岡県には、総額で5,957億7,321万円余が交付され、コロナ感染症の拡大防止施策、医療助成、医療・保健・福祉対策、地域経済対策、事業者支援、県内自治体支援などに活用するなど、様々な支援を行ってきました。

なお、2021年12月、ワクチン接種や検査による確認を促進するとして、都道府県による検査無料化の取組に対し支援を行う「検査促進枠」が創設されています。

国の交付金なども活用し、引き続き県民のいのちとくらしを守る施策を推進します。

県営「大濠公園能楽堂」がリニューアルオープンしました。



県営「大濠公園」の北側に位置する「能楽堂」ですが、県民文化の向上と伝統芸能の保存・継承を目的とし、活用されています。

能・狂言のほか、邦楽・舞踊、クラシック・ジャズライブ、演劇や寄席などの公演や結婚式も行えます。

2020年8月には、「第61期王位戦第4局」が開催され、当時の藤井聡太棋聖が王位のタイトルを獲得した舞台として全国的に話題となりました。

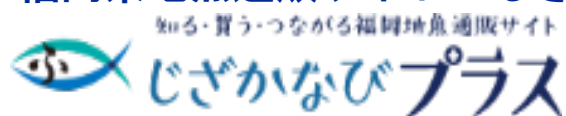
「大濠公園能楽堂」は、天井の耐震工事、観客席の改装（幅広）により2021年1月～12月まで利用停止となっていましたが、本年1月からリニューアルオープンしています。

皆様も是非、能楽堂にお越し頂き、能や狂言、芸術活動に親しまれてください。



2020年8/19～8/20

福岡県地魚通販サイト「じざかなびプラス」が開設されています！



福岡の美しい海でとれた、美味しいおいしい地魚の商品や情報を、まるっとひとまとめに配信。

知らない地魚の魅力を発見できる、新鮮で驚き満載のおさかなサイトです。ご利用ください！

<https://jizakanavi-plus.jp/>

「福岡県障がい者アートレンタル事業」展開中！

アートは美術館やギャラリーだけで鑑賞するものではなく、街の至る所に点在し、私たちの日常を穏やかにしてくれています。福岡県では、様々な場所でアートを楽しんで頂くため、障がいのある方々の絵画作品を企業や店舗、公共施設などに有料で貸し出し、その料金の一部（30%）を作家へ還元しています。是非、ご利用下さい！

<https://fukuoka-artrental.org/>

交通系事業者への支援を、引き続き強化して参ります！



県民生活や経済活動にとって必要不可欠な鉄道や乗合バスですが、コロナ感染症拡大の影響により、いずれも輸送人員は大幅に減少し、2020年4月から2021年9月までの期間では、コロナ前の概ね6～7割程度の水準となっています。

『緊急事態措置』が解除された2021年10月以降、通勤・通学等の利用者は戻りつつあるものの、昼間のビジネス利用、週末の観光・レジャー等の利用者は十分に戻っておらず、輸送人員はコロナ前の8割程度に留まっています。

従来から、人口減少や少子高齢化によって利用者が減少傾向にある鉄道・乗合バス事業者にとって、コロナ禍も加わり厳しい経営状況が続いています。

県では、この間、地域鉄道3社及び県内で乗合バスを運行するバス事業者13社に対し、運行継続を支援するため、コロナの影響による減収額の一部を助成するとともに、タクシー事業者も加え、車内の消毒や感染防止に必要な経費を助成してきました。

更に、旅行需要を喚起するため、「福岡の避密の旅」観光キャンペーンを実施してきましたが、隣県とも協議の上、2021年10日から利用対象者を山口県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県の各県民に拡大し、今後、公共交通機関の利用につながるよう、鉄道やバスを組み込んだ旅行商品の造成を促しています。

また、非接触型決済機器、いわゆる交通系ICカードの導入推進の支援については、市民の日常的な利用の利便性向上とともに、高齢者や障がい者をはじめとした公共交通利用のバリア軽減にもつながるため、県や市町村などで構成される「福岡県地域交通体系整備促進協議会」を通じ、未導入の事業者に対し、導入の要望を行っています。

事業者によっては、導入の際の初期費用に加え、維持経費も毎年必要となり、費用対効果の面などから導入は難しいとの指摘もありますが、非接触型ICカード導入は、①「ウィズコロナの下、感染防止にも有効であること」、②昨年度改正された「地域公共交通活性化再生法」に基づく基本方針では、住民や来訪者の移動手段を確保するため、「交通系ICカード等の新しい技術を活用した利用者の利便性向上が求められる」旨が新たに付記されていることなど、事業者にしっかりと説明し、改めて導入を働きかけていきます。

引き続き、地域公共交通を守るため、各事業者への支援を続けて参ります。

1. 「福岡県交通ビジョン及び福岡県自転車活用推進計画」を策定します。

次期『福岡県総合計画』に合わせ、「福岡県交通ビジョン」及び「福岡県自転車活用推進計画」を策定します。今回の計画期間は2022年度～2026年度までの5年間です。

前回「福岡県交通ビジョン2017」の策定の際、私は福岡県交通対策協議会委員として参画に携わりました。今回、特別委員会委員長、総務企画地域振興委員会委員として、新しい交通ビジョン、自転車活用推進計画の策定に尽力しています。

2. 「北九州空港」の滑走路の延長に取り組んでいます。

「北九州空港」の滑走路延伸（2,500m⇒3,000m）については、国・県・北九州市・苅田町で「北九州空港施設計画検討協議会」を設置し、PI（パブリック・インボルブメント）を実施しました。

その後、PIの目標が達成されたことから、国はPIの実施結果を11月17日に公表し、これをもってPIの手続が終了しました。

今後、北九州空港の滑走路延伸が本格的に動き出します。

3. 「福岡空港」第2滑走路増設工事中、2024年度完成予定です。

現滑走路（2,800m）から西側210m離れたところに2本目の並行滑走路（2,500m）を新設。事業期間は2015年度～2024年度、事業費は1,643億円となっています。

航空機の混雑・遅延の解消、将来の航空需要への適切な対応等、福岡県及び九州経済の活性化と国際化のため、確実な実現を進めて参ります。